

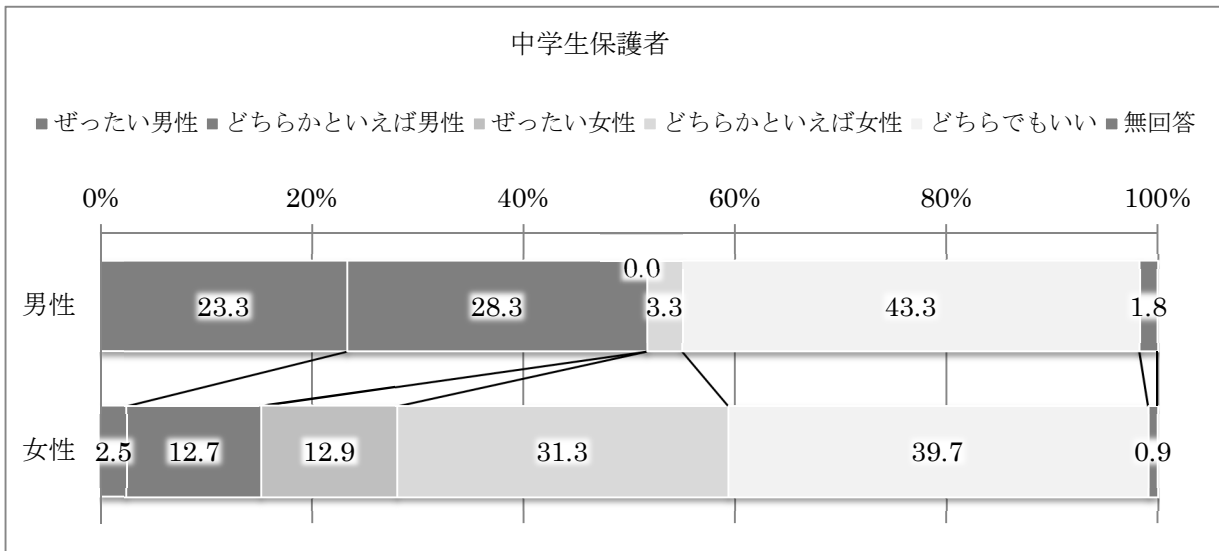
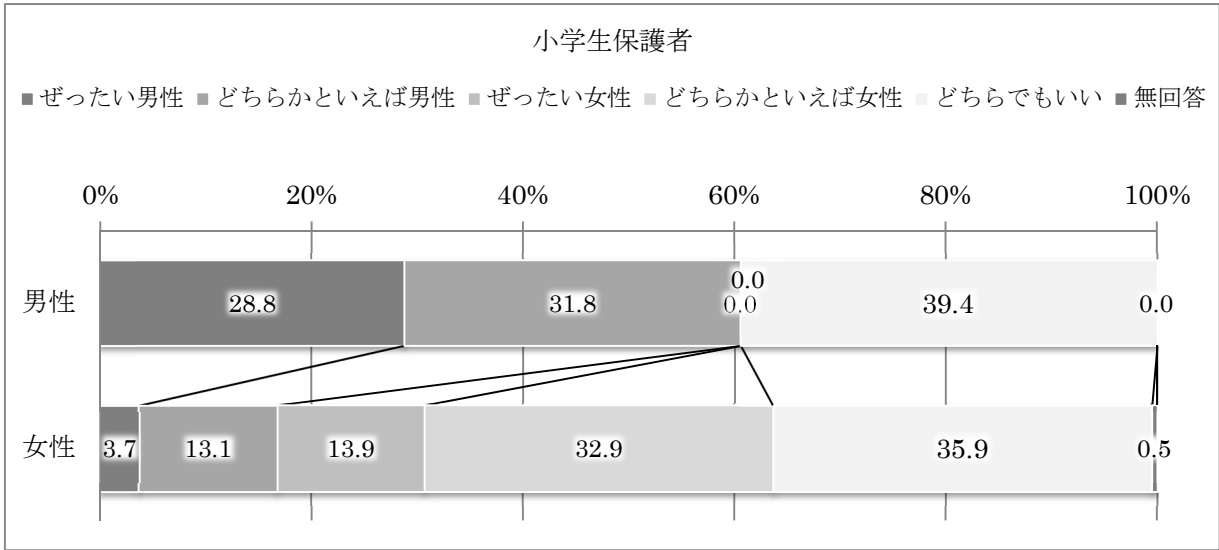
今度、生まれ変われるとしたらどちらの性別がいいのかきいた。

小学生男子は、「ぜったい男性」57.8%が特に高い。女子は、「どちらでもいい」が34.3%で高く、「ぜったい女性」30.7%「どちらかといえば女性」13.8%の順である。

男子の「ぜったいに女性」「どちらかといえば女性」の和、1.3%に対し、女性の「ぜったい男性」「どちらかといえば男性」の和は12.4%で、女子が別の性を望む方が、11.1p高い。

中学生男子は、「どちらでもよい」が46.1%で高い。女子も、「どちらでもいい」が33.2%で高い。

男子の「ぜったいに女性」「どちらかといえば女性」の和、5.4%に対し、女性の「ぜったい男性」「どちらかといえば男性」の和は29.2%で、女子が別の性を望む方が、23.8p高い。



小学生保護者男性女性とも、「どちらでもいい」の39.4%、35.9%と高い。男性の「ぜったいに女性」「どちらかといえば女性」の和、0%に対し、女性の「ぜったい男性」「どちらかといえば男子」の和は16.8%で、女子が別の性を望む方が、16.8p高い。

中学生保護者男性女性とも、「どちらでもいい」の43.3%、39.7%と高い。男性の「ぜったいに女性」「どちらかといえば女性」の和、3.3%に対し、女性の「ぜったい男性」「どちらかといえば男子」の和は15.2%で、女子が別の性を望む方が、11.9p高い。

保護者子どもとともに、女性を望む男性は極端に少ない。

「生まれ変われるとしたら」の理由《児童生徒／保護者》

16～19頁 別紙まとめ

「生まれ変わるとしたら」の理由《児童生徒／保護者》

①今の性を望む人：今の性に望まれる役割やあり方に、自分が適している。

保護者(男性：仕事で頑張れる、女性：家事が嫌ではない、

男女：今のジェンダーに満足等)

児童生徒 (男子：運動ができる、仕事がしたい、

女子：おしゃれができる、産める)

②別の性を望む人：男性の社会での優位性を感じている。

(男性を望む女性) 保護者 (好き勝手できる、自由、男性社会だから)

児童生徒 (女子は面倒、男子は楽で自由)

: 女性に求められる忌避意識

保護者 (女性は家事も育児もしなくてはならない)

児童生徒 (赤ちゃんを産まなくていい)

: 男性のあり方の方が好ましく感じている

(つきあいがさっぱりしている) = 男性も「女性は人間関係が難しい」

③どちらでもよい人

保護者：男女平等の観点 (同じ人間、性別は関係ない、男女平等の時代)

児童生徒：損得で判断し、どっちもどっちという結論

(楽しければどちらでも、どちらにもいい所・悪い所がある)

疑問 児童生徒は性差を“損得”で感じ取っている。どの性であれあらゆる選択が可能であること、男女は平等であることを納得してもらうにはどうしたらよいか？

→建前と現実の乖離を縮める？

(×性別による子への期待・要求の違い、家庭での役割分担状況)

